

# 年頭のごあいさつ

社団法人 北海道林産技術普及協会  
会長 竹内久彌



平成11年の新春を、会員の皆様とご一緒に心からお慶び申し上げます。

いよいよ20世紀の大詰めの年になりました。この年が人類の共通の理想を実現する21世紀につながる歴史上重要な一年となるように、心から念願致します。

さて、昨年以來、私どもを取り巻く経済社会情勢は、「未曾有の」という表現が使われる、まことに厳しい状況が続いておりますが、年末に入って、これまで進めてきた規制緩和の効果が徐々に現れ始め、また政府の超大型公共投資への期待感なども出てきて、僅かながら好転の兆しも見えて来ております。この兆しを捉えて、七年にわたる不況から脱出できるかどうかは、社会全体の意欲の結集がどう進むかということにかかっています。

私どもの北海道では、あの「たくぎん」の倒産に端を発して、不況は全国で最も深刻なものとなっており、私どもの木材産業関連の分野はその中でも最も厳しい打撃を受けているところであります。

昨年9月24日には、「経済再生・経営危機突破に向けて」というスローガンで、第33回全国木材産業振興大会が札幌市で開催されました。この大会の中で全国木材組合連合会の久我一郎会長は、この事態を乗り切るための条件として、全国の木材組合は次の五つの課題に緊急に取り組まなければならないと発言しております。

すなわち、①当面の不況対策と木材利用推進、②木材産業の構造改革への対応、③製材JASの格付け検査体制の整備、④地球温暖化対策に対する対応、⑤国有林野事業の抜本改革に対する対応、の五つです。

この五つの課題の全てが川上から川下に及ぶ広範な「林産技術」の進展・充実を伴わなければ実現できないことです。私どもは今まさに意識を新たにして、新技術の開発、新商品の開発、技術の改善、新サービスの開拓、製品の信頼性と競争力の向上、等々新しい「林産技術」に取り組まなければなりません。21世紀の「新しい現実」は既に始まっていることを認識するべきです。もう過去に安住することはできません。過去の林産技術は「見直し」をして、新しい現実に対応させていかなければなりません。

一昨年12月には、京都で「地球温暖化第3回締約国会議」が開かれました。昨年11月にはブエノスアイレスで第4回が開かれております。地球温暖化に対する国境を越えた取り組みは着実に進みつつあります。ここでもっとも強く求められてくるのは、「健全な森林の育成」とそれを支える「正しい木材の利用」です。また「正しい木材の利用」を支えるのは「林産技術の進展」です。「正しい木材の利用」はまさしく「来たるべき時代」の要請であります。

私どもの北海道林産技術普及協会は、事業者、公務員、教育者、技術者、研究者、一般市民と非常に多様な会員によって構成されていますが、皆一様に、森林と木材の役割を認め合う人々の集まりであります。今や、21世紀を来年に控えて、この重要な木材の役割を現実のものとするために、私どもの夫々の叡智を結集して、それぞれの置かれた立場で最大限の工夫と努力を行っていききたいものであります。